

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2170700450		
法人名	企業組合		
事業所名	企業組合 巣南グループホーム		
所在地	岐阜県瑞穂市1357番地1		
自己評価作成日	平成24年10月1日	評価結果市町村受理日	平成24年12月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaizokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kan=true&JigyosyoCd=2170700450-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター ぴーすけっと
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル
訪問調査日	平成24年10月24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住み慣れた地域の中でその地域の方々とのふれあいを大切にしています。代表者夫婦はもちろん職員もこの地域で生活している者が多く地域の行事に自然に溶け込み参加することが出来ます。ホームには毎日のように地域の方や保育園児が訪ねてくれます。ホームで採れた新鮮な野菜が毎日の食卓を彩り旬のものを一番に頂いています。1ユニットで入居者も職員も変動が少ないのでひとつの大家族のようにいたわりあい生活できます。穏やかな生活の中ゆったりとした時間が流れていきます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、代々形成された昔ながらの集落にあり、喧騒からも外れている。利用者は、民家風の落ち着いた、静かなたたずまいの中で、我が家にいるような暮らしを享受している。事業所の所有する広い畑では、年間を通して野菜を栽培し、食材のすべてを賄い、食卓に彩を添えている。地域とは、共同体の一役を担い、地域に密着し、互いに支え合う親密な関係を築いている。また、職員が定着して働く意欲を高めるために、管理者・職員が、職業感を共有し、共感しながら働きがいのある職場づくりを実現している。そして、利用者が、ゆったりと穏やかに、ぬくもりのある生活が送れるように、一丸となって取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満 足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟 な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの特色特徴にあった独自の理念を掲げ全職員が日々の介護姿勢を再確認している。	理念は、我が家に帰ったような「ただいま、おかえりなさい」と、明快である。理念は、日々声をかけ合い、全職員で共有している。地域の一人として、周辺住民と日々ふれ合い、ぬくもりのある生活を支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の保育園児が年6回程度来訪し歌や演技を披露してくれる。保育園や小学校の運動会に招待されたり夏祭りや地域運動会にも参加し地域と交流している。また地域の方々を招いて落語演芸会等を開催している。	地域の人々や子ども達をホームに招いたり、学校行事に招かれたり、相互に交流している。毎年、地域向けに、介護教室を開催している。周辺住民は、協力的で理解者であり、親密な付き合いをしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年行うホームの介護教室には多くの地域の方々に参加して頂いている。入居者と地域の方が一緒になって地域行事に参加したり日々の散歩や生活の中で自然に交流している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域の多くの方々に参加して頂き入居者の状況やホームの取り組み等話し合いいろいろな意見や情報を頂いている。	会議は、隔月に開催し、行政、近隣住民、役職者、家族が参加している。運営状況、行事計画を報告したり、交通安全教室などを同時に行っている。会議で出された意見・要望等には、速やかに対策をとっている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加して頂き、その他多くの機会にご協力やアドバイスを頂いている。また毎月介護相談員に来訪して頂き交流している。	担当者へは、事業の実情を常に報告している。制度改正の指導を受けたり、空き情報を提供し、協力関係を築いている。事故が発生した場合等は、その都度伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月の勉強会でケアに問題がないか、自覚していない拘束が行われていないか検討している。身体拘束廃止宣言を掲げ日々のケアで振り返りを行っている。	拘束をしないケアを実践している。無意識に拘束を行っていないか、常に振り返り、全員で確認している。散歩は、個々の能力を見極めたうえで、その人に合わせた行動を支えている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修会に参加したりホーム内勉強会を開き理解し職員がお互いに注意できるようにしている。入居者の様子を見て話をよく聞き虐待の傾向や疑いがないか常に注意している。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要な入居者がいないか注意している。また勉強会を開き職員の中でも理解が深まるようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	出来るだけ分かりやすく説明し質問しやすい雰囲気作りに努めている。契約時は必ず家族に来院して頂き充分時間をとって説明し医療についての契約や個人情報についての契約も文書で同意を得るようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常に家族と連絡を取り合い来院時やお便り等で問いかけ話し易い雰囲気作りをしている。出された意見や要望は迅速にカンファレンスで話し合い運営に反映している。必要に応じ運営推進会議でも話し合いが出来るようにしている。	家族の来院時や電話、運営推進会議の中で、意見・要望を確認している。意見等は、職員会議で検討し、運営に反映する仕組みがあるが、いずれの機会にも、家族からの意見は、出ていない。	家族が意見を気楽に出せるように、職員側から、意見を聴く努力や、場面づくりに期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回程度ホームカンファレンスを開き意見が出し易いよう努めている。	月例の会議で、運営に関して話し合っている。ケア事例の共有や、改善課題についての意見、夜勤の職員体制についての意見などがあり、運営に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	運営者、管理者は常に職員と接し状況把握に努めまたコミュニケーションを充分とって必要に応じ職場環境整備改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員を把握しその職員に必要な研修を受けることが出来るよう配慮している。事業所内外で行われる研修に積極的に参加し研修内容は全職員が閲覧し理解を深めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県グループホーム協会に所属し協会の会議や研修に参加して意見の交流に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	可能な限り入居前の住居を訪れ生活状況の把握に努め本人と面談し要望や気持ちを汲み取るようにしている。入居お試し期間を設け不安の解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族との連絡を密に取りホームを見学して頂きながら家族の意向や本人の家庭での様子をゆっくり聞く機会を設けている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人や家族との面談の中から現在の状況を踏まえて今一番必要なサービスが何かを考え本人の思い、家族の要望にも応えられるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者が得意なことは教えて頂きながらともに作業を行ったり食事やレクリエーションを一緒にすることによって同じ感情の共有ができるようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月のホーム便りには担当職員が手書きで入居者個々の様子をお知らせし、行事の参加を呼びかけて一緒に支えることができるようしている。ケアプラン更新時にも状況をお知らせし協力をお願いしている。またお盆やお正月には家族で過ごすことができるよう勧めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの方がいつでも来て話ができるようになってきている。また散歩時に親戚や馴染みの方の家にも行くことができるよう支援している。	利用者が地域の人ばかりなので、なじみの人の訪問が多い。また、職員の同行で、利用者が知人宅を訪問することもある。日常の散歩でも、知人と出会ったり、馴染みの風景にも常に触れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が食事や作業、レクリエーション等を一緒に行なうことによって入居者同士のかかわりがうまくいくように配慮している。また一人一人に声かけをし会話することで孤立することがないように働きかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転出や入院時は情報を提供し同様なサービスを受けることができるようにしている。また、家族の方、退去者が相談できる雰囲気作りに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、様子、表情をよく観察し把握する。困難な時は全職員で検討しよりよい方法を考え、本人に寄り添い把握に努めている。	日々の会話や行動、表情などから、その人なりの思いを把握している。困難な人は、職員間で支援のあり方を話し合い、本人にとって、よりよい暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や入居者との話し合いの中で生活状況を常に把握するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの希望、生活スタイルにできる限り対応し把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を中心にケースカンファレンスをし意見交換、計画をたてている。介護計画更新時、必要時に毎回アセスメント、モニタリングをし本人の想い、希望の変化を把握している。	担当者を中心に、ケア会議で現状を評価し、職員や本人・家族の意見を介護計画に反映させている。定期的にモニタリングを行い、それに基づいて、柔軟に見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	全職員が情報を共有できるよう入居者個々の介護ファイルを利用しケアの実践や気づいたことを記録しそれに基づき介護計画の見直しを行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者一人ひとりの希望、状況に応じ必要なサービスを提供している。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年に2回近隣住民と防災訓練、救急法等を行い緊急時に備えている。また、年6回以上の運営推進会議を開き地域住民との意見交流を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に医療に関する希望を聞いて文書で同意をもらい入居後も引き続き同医療が受けられるよう配慮 地域の病院内で本人や家族の希望を聞いてかかりつけ医をきめている。	入居時に、本人・家族の希望を聞き、かかりつけ医を選択している。協力医への受診は、職員が同行し、専門科医への受診は、原則家族が対応している。緊急時の受け入れ病院と連携している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入居者の健康管理や状況変化に応じた支援ができるように看護職員を配置し、常に連絡を取り合い相談できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師からの説明も家族とともに聞くようにし状態を把握、入院時には入居者の支援に関する情報も提供し、できる限り職員が見舞い速やかな退院支援につなげている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者の想いや家族の希望を把握して医療に関する契約書を作成している。また、同時にホーム内でできるケアについて十分説明し理解を頂いている。契約書は状況の変化に応じ常に再確認している。	重度化への対応は、自分で食べることができなくなった時を限度とし、家族と合意している。その場合、何時でも医療機関へ移れる体制を取っている。また、状態によって、他の介護施設への転居も支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者の急変や事故発生時に対応できるように事故対応マニュアルを作成し緊急時に備えている。定期的に防災訓練や救急法講習を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消火器の使い方、避難訓練、救急法講習を地域の消防署や地域の方々の協力を得て行っている。また、避難場所、経路等を確認し全職員で連絡体制を整えている。	年に2回、災害訓練を行っている。消防署員が、毎回立ち合っている。近隣住民とは、相互に協力し合う関係を築いている。備蓄品も確保している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員の意識向上、統一を図るためホーム内勉強会を行ない人格の尊重、プライバシーの確保に努め、個人情報の取り扱いも徹底するよう配慮している。	利用者の誇りを損ねないように、否定的な言葉かけをしないように徹底している。勉強会では、人権や人格の尊重とは何かを、学んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者の思いや希望が引き出されるような雰囲気作りを心がけ、いくつかの選択肢を提供し自己決定の支援を行なっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のそれぞれの思いや状態を配慮し買い物や散歩時等十分なコミュニケーションをとりながら一人ひとりのペースを大切に支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定が基本ではあるが職員と一緒に考えその人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事が楽しみなものになるよう入居者と職員と一緒に野菜処理等の準備を行い、それぞれの好みや力を活かしながら食事、片付けができるようしている。	食事の準備や片づけを利用者と一緒に行っている。利用者の好みを献立に取り入れ、食べる楽しみを引き出している。職員も一緒に食べ始め、同時に終わるように、ゆっくと楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の献立が一目で分かるように肉類豆類、野菜果物、卵乳製品の色分けをし記録し個々の食事量水分量を記録し職員全体で情報を共有できるようしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者の能力に応じて口腔内の清潔が保てるよう見守り、声かけ、援助を行なえるよう努めている。		

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を促すため入居者の排泄パターンを把握しトイレ誘導を行っている。	個々の排泄パターンを把握し、適宜トイレへ誘導し、失敗のないように支援している。夜間も、声をかけてトイレへ促し、自立に向けて取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜中心の副食、水分を多く摂ることや散歩、体操等で体を動かすことを支援している。自力排便困難な方にはその人に合った方法で援助、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回の入浴、出来るだけ本人の希望に合わせて入浴できるよう配慮している。	週に3回、希望に応じて入浴している。重度者には、介助者2人で対応し、快適な入浴を支援している。拒否の人には、誘導方法を心得て解決している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動を促し生活リズムを整え安心して休息、安眠できるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋ファイルを作り服薬内容が速やかに把握できるようにしている。また、服薬シートを作成し内服薬内容確認と服薬確認をしている。内服薬を渡すときは内服薬の内容を説明している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人に出来そうな事を見つけ出し得意な分野で力が発揮できるようにする。その都度感謝励ましの言葉をかけるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、花見、買物、食事等や外出することにより季節を目で感じている。移動動物園やサーカスにも家族の許可のもと出掛けた。	事業所周辺を、毎日散策している。買い物や外食へも職員と一緒に出かけている。年間を通し、季節のイベントへ、家族に協力を呼びかけ、出かける機会を設けている。	

岐阜県 グループホームすなみ

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物可能な方は小額のものであれば自分で買うことが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じ本人自から電話したり、かかってきた電話を取り次いでいる。書くことが得意の方は手紙を書くことが出来るよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式キッチンより食欲をそそる料理の匂い、大きな窓から見る事が出来る花、野菜、果物で季節を感じそれを話題に職員との会話を楽しみゆったりとした時間を過ごすことができる。	居間が調理場と対面し、食事づくりの様子が体感できる。窓越しに、庭の樹木や草花が季節の移り変わりを感じさせてくれる。昨年、大幅な改築を行い、広さとゆとりを確保し、居心地のよい共用空間になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングには食事用の大きなテーブルがあり、食事以外には自由な席で一人の時間を楽しんだり入居者同士で会話を楽しんだりできるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人が今まで使用してきた馴染みの物を使用したり居室に置くことにより心穏やかに快適に居心地よく過ごすことが出来るよう工夫している。	居室には、使い慣れた馴染みのものを持ち込んでもらい、バランスよく配置している。家族の写真や、本人手づくりの作品を飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活用させるためトイレ、廊下、浴室に手摺をつけ安全確保と自立を職員の見守りのもと促している。		